

フィージビリティスタディの調査結果について

1. 実施概要

- (1) 実施事業者:5事業者 (分解整備事業 2)
(車体整備事業 2)
(電装品整備事業 1)
- (2) 実施期間: 8月22日~9月4日(2週間)
- (3) 実施件数:225件 (平均45件)

2. 改善すべき点

- (1) 調査票の簡素化⇒ 設問数の削減、車両個々に対する記述項目の廃止。
- (2) 事業者への作業負担の軽減⇒ 対象車両を国産ガソリン車に限定。
- (3) 調査結果まとめの効率化⇒ 調査票をエクセル集計し易い様に、複数件記入方式とする。

3. 実施結果(参考)

【入庫目的欄】 ほぼ記入されており、調査項目として妥当と判断できる。

車検	点検	故障	事故	整備	用品	その他	未記入	合計
38	58	28	34	35	28	0	4	225
16.9%	25.8%	12.4%	15.1%	15.6%	12.4%	0.0%	1.8%	100.0%

【ご用命内容欄】 記入無しが40%あり、作業負荷低減のため、削除したい。

記入あり	記入なし	合計
134	91	225
60%	40%	100%

【警告灯の点灯有無欄】 ほぼ記入されており、調査項目として妥当と判断できる。

警告灯点灯	警告灯なし	未記入	合計
8	206	11	225
3.6%	91.6%	4.9%	100%

【DTC 名の記入欄】 車両の複数 DTC は5個で 90%把握できる。記入欄を削減可能。

DTCコード数	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	10個
件数	31	7	4	2	2	1	0	0	1	2
件数累計	31	38	42	44	46	47	47	47	48	50
累計の割合	62%	76%	84%	88%	92%	94%	94%	94%	96%	100%

【フリーズフレームデータ欄】 回答の選択肢を少なくして、作業者の負担を低減させたい。

設問	回答	割合	記述情報欄の回答状況
故障部位の探求に役立った	4	8%	内1件は信号名の記述が未回答
故障部位の探求に役立たなかった	11	22%	殆どが用命事項と異なり関係なし
確認したが、データが無かった	19	38%	
スキャンツールが未対応	1	2%	対象システムは未回答
使い方不明	0	0%	
未回答	15	30%	
合計(回答の対象数=DTCあり)	50	100%	

【ストリームデータ欄】 回答の選択肢を少なくして、作業者の負担を低減させたい。

設問	回答	割合	記述情報欄の回答状況
故障部位の探求に役立った	7	3%	内2件は信号名の記述が未回答
故障部位の探求に役立たなかった	1	0.4%	理由欄は未回答
スキャンツールが未対応	5	2%	対応システム名は全て未回答
使い方不明	0	0%	
今回の入庫目的では使わない	134	60%	
未回答	78	35%	
合計	225	100%	

【作業サポート欄】 回答の選択肢を少なくして、作業者の負担を低減させたい。

設問	回答	割合	記述情報欄の回答状況
HV 整備モード、エア抜き、DPF 強制再生	0	0%	
部品交換時の初期設定	4	18%	4件とも信号名の記載あり
キャリブレーション	1	0.4%	記載あり(車高の強制調整)
コンフィグレーション	2	1%	SRS(輸入車)、1件は未記入
サービスリセット	4	2%	記載あり(インスペクションリセット)
その他	1	0.4%	記載あり(アクチュエータテスト)
スキャンツールが未対応	2	1%	対応機能名欄は未記入
今回の入庫目的では使わない	129	57%	
未回答	82	36%	
合計	225	100%	

【外注作業欄】 未回答率が高く、調査から外す。

設問	回答	割合	記述情報欄の回答状況
自己完結した	168	75%	
外注依頼した	3	1%	理由欄、作業内容欄共に未記入
未回答	54	24%	
合計	225	100%	

4. DTC 検出状況(参考) ⇒ 本調査で精査したい

DTC は、対象車両(N=225)の内、n=50(検出率22%)の車両で検出されたが、その過半数(63%)は過去故障であった。

DTC 区別	1個目	2個目	3個目	4個目	5個目	6個目	7個目	8個目	9個目	10個目	合計	割合
現在故障	11	2	1	2	1	0	1	1	1	1	21	19%
過去故障	32	13	9	5	3	3	2	1	1	0	69	63%
仮コード	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2%
不明	6	3	2	1	2	1	0	1	1	1	18	16%
合計	50	19	12	8	6	4	3	3	3	2	110	100%

検出された DTC の個数(N=110)に対する入庫目的別の検出状況は以下のとおり

DTC 区別	車検	点検	故障	事故	整備	用品取付	その他	合計
現在故障	0	3	10	0	7	1	0	21
過去故障	14	15	12	6	15	5	2	69
仮コード	0	2	0	0	0	0	0	2
不明	0	5	6	0	5	1	1	18
合計	14	25	28	6	27	7	3	110

- ・ 本来の故障につながる現在故障は、点検、故障修理、整備依頼時に検出されている。
- ・ なお、重大故障を示す警告灯の点灯(8台)は、全て現在故障を検出していた。
- ・ 過去故障は、再現性の乏しい故障に対して故障探求に有効ではあるが、市場の実態としては「整備時の消去忘れ」の可能性が高い。

5. その他【事業者から寄せられている主な意見】

- ・ フリーズフレームデータとデータストリームの確認欄について、設問の意味(内容)が解りづらい。
- ・ 通常使用しない入庫車両にもスキヤンツールを使用することがとても大きな作業負担だった。輸入車、大型車等をはじめから確認できないものについては、対象外としてはどうか。
- ・ 調査期間について、1事業者で3ヶ月は長すぎるので、期間を2週間に区切とか、1事業者あたりの調査件数を指定してはどうか
- ・ 事故や故障に関係しない故障コードが車両に残っているケースが数件あった。
- ・ 車両側のコネクタの位置が解りづらいものがあり時間を要した。
- ・ プリント機能があるといい。
- ・ 車検、法定点検などの場合は、ショートテスト機能、全てのシステムのフォルトを一斉にチェックする機能、コードリード、プリントアウト機能があれば十分。
- ・ 車種特定のと看、車検証の初度登録年は平成表示だが、診断機では西暦表示のため変換が必要。和暦と西暦の切り替えが出来るといい。

